

研究の目的と方法

本論文では、開発途上国のすべての人々の健康を守るために重要な役割をになう住民保健ボランティア活動をどのようにすれば有効かつ持続可能なものになるのか、先行研究および筆者が中央アメリカに位置するグアテマラ国とエルサルバドル国の保健省媒介虫対策課にて3年間にわたり国際協力に携わった経験をもとに考察する。

2015年末に期限をむかえたミレニアム開発目標（MDGs）に代わり、2016年1月から新たに施行された国際目標である持続可能な開発目標（SDGs）では、「2030年までに人間中心の持続可能な開発を実現すること」を目的としている。このSDGsで保健分野の目標として掲げられている、すべての人々の健康な生活を確保するために、住民保健ボランティアの積極的な活動が必要不可欠となる。開発途上国では、首都など都市部の人々が集中しているところでは医療施設や医療従事者は充実しているが、村落部では、保健センターや医療従事者が常駐できておらず、十分な医療を受けることができていない現状がある。そのような開発途上国の村落部において、住民と保健センターとの橋渡し役である住民保健ボランティアは、大きな役割を果たしている。

このように開発途上国で重要な役割を担う住民保健ボランティア制度であるが、多くの課題も出てきている。その一つとして、住民保健ボランティアが保健問題の解決や必要とされている活動に取り組む行動意欲の大きさ・持続性が個々に異なる点が挙げられる。つまり、住民保健ボランティアのモチベーションの問題であると言い換えられる。しかし、ボランティアのモチベーションは、一人ひとり異なるとされており、考察することは難しいとされている。では、住民保健ボランティアの継続活動のためのモチベーション要因を模索することは無意味なのであろうか。もちろん本論文では、住民保健ボランティアのモチベーションを考察することは、有益であると考えられる。なぜなら、住民保健ボランティア活動として、継続性が一番重要なことであり、たとえ断片的な見解であっても、それを手がかりとして今後の住民保健ボランティア活動に役立てることができるからである。以上のことより、本論文では、すべての人々の健康を守るために重要な住民保健ボランティアのモチベーション要因に焦点を当てた。

また、本論文では、この目的にアプローチするための方法として、先行研究とケーススタディをもとに多角的に検討する。ケーススタディとして、筆者が現地活動に携わり参与観察したものとインタビュー調査及び見聞した情報である。また本論文では、外部者である筆者に対して保健省スタッフや住民保健ボランティアが発言

したものは、客観的な論証に至らないとしても、深い含意を有していると考え、考察材料としている。

論文の構成

第1章 本論文の背景と目的

第2章 国際保健政策の変遷

第1節 プライマリ・ヘルス・ケア

第1項 国際保健援助プログラム始まり

第2項 プライマリ・ヘルス・ケアの定義

第3項 1990年以降の国際保健政策の拡大

第4項 ミレニアム開発目標から持続可能な開発目標へ

第2節 住民保健ボランティア

第3節 政治体制が保健プログラムに及ぼす影響

第3章 ボランティアの継続活動要因

第1節 ボランティアのモチベーション

第2節 ボランティアの活動行動要因

第1項 ボランティア活動参加時の行動要因

第2項 ボランティア活動を継続する行動要因

第3項 ボランティア活動を積極的に取り組む要因

第3節 住民保健ボランティア活動継続要因

第4章 グアテマラ国とエルサルバドル国の事例

第1節 グアテマラ国でのシャーガス病対策

第1項 シャーガス病とは

第2項 シャーガス病対策プロジェクトの変遷

第3項 住民参加型サシガメ監視システムの確立

第4項 シャーガス病対策での住民保健ボランティアの役割

第5項 グアテマラ国シャーガス病対策の課題

第2節 エルサルバドル国でのマラリア対策ボランティアの事例

第1項 住民保健ボランティアについての広報活動の重要性

第2項 住民保健ボランティア調査

第3項 広報活動の有効性

第5章 有効的な地域住民への広報活動の考察

第1節 効果大きいキャンペーンの実施

第1項 キャンペーン方式とは

第2項 キャンペーン方式の効果

第3項 エルプログレス州「シャーガス病啓発キャンペーン」の事例

第4項 住民保健ボランティア主体でのキャンペーン実施

第2節 住民保健ボランティアマップの掲示

第3節 保健省スタッフの人的マネジメント力の強化の必要性

第6章 結語

謝辞

参考文献

論文の概要

本論文は6章で構成されている。まず第1章において、本研究の背景と目的、全体的な枠組みを提示する。次いで第2章では、第4章から考察する上で必要な国際保健政策の変遷をプライマリ・ヘルス・ケア（PHC）と住民保健ボランティア制度から概観する。まず、第2次世界大戦後から1970年代までの国際保健政策を概括し、1978年に確立したPHCの定義を説明する。その後、1990年以降の国際保健社会で幅広く受け入れられた「人間開発」の概念を明示し、2000年に採択された「ミレニアム開発目標」と2016年より施行された「持続可能な開発目標」の保健分野にフォーカスする。次いで、PHC主導の保健政策の流れのなかで1980年以降、急速に開発途上国の政府や非政府組織の間で採用されるようになった住民保健ボランティア制度を主に、筆者が活動をおこなった中央アメリカにおける選任、養成方法、研修のおこない方、活動内容および評価方法を概観する。さらに開発途上国において、すべて人々の健康を守るためには、行政とコミュニティとの互いに頼り合う良好な関係の構築が重要であるため、政治体制が保健プログラムに及ぼす影響を中央アメリカのニカラグア国サンディニスタ政権を事例に検討する。

第3章では、開発途上国で活躍する住民保健ボランティアの課題であるモチベーション及びボランティアの継続活動要因を先行研究より考察する。本論文では、ボランティアモチベーションを「個人が社会問題の解決や必要とされている活動に取り組む個人の行動の方向性・大きさ・持続性を説明する機能や過程」と定義し、先行研究よりボランティアモチベーションは参加時、継続時および積極的行動時の時期により、それぞれ影響を与えている要因が異なるため、3つの時期に分類して考察する。そして、本論文の焦点である住民保健ボランティアの場合は、どのような有効的なボランティア活動継続要因があるかを1997年のPHCプロジェクトから読み解き、住民保健ボランティアのモチベーション要因を明らかにする。

第4章では、より具体的に住民保健ボランティア活動を考察するため、筆者がかかわったJICAプロジェクトの前史である「オンコセルカ病研究対策プロジェクト」から「シャーガス病対策プロジェクト・フェーズ2」までの30年間の歩みを概観し、シャーガス病の再発を防ぐための住民参加型サシガメ監視システムの重要性および監視システムで重要な住民保健ボランティアの役割を明確にする。次いで、筆者が経験したエルサルバドル国のマラリア対策ボランティアの現状から、地域住民への広報活動が最重要であるのではないかという仮説を立て、筆者が3年の間、現地活動に携わり参与観察したものと住民保健ボランティアに実施した社会的背景アンケート調査、ボランティアの認知度、ボランティア活動の継続要因および金銭的報酬に関するインタビュー調査から考察・検討する。その結果からボランティアのモチベーションを向上させるためには、広報活動が有効的であると考えられる。なぜなら、住民保健ボランティア制度の認知度が低いと、住民は活用しなくなり、頼られることもないため、住民保健ボランティアの自発性、責任感、使命感はなくなり、モチベーションはさらに低下し活発的な活動はおこなわなくなり、負の連鎖におちいる。

負の連鎖を改善するためにも、積極的に広報活動をし、地域住民に保健ボランティアについて認識してもらうことが最重要であると考え。有効的な広報活動をおこなうことにより、地域住民の認知度は高くなり、多くの住民が保健ボランティアを活用するようになり、住民とボランティアの間に信頼関係が築かれ、また住民に頼られることでボランティアは責任感・使命感が生まれ、モチベーションが向上し、活発的な活動へつながる。このような好循環が出来上がると、相乗効果で住民保健ボランティアの質も向上すると推測できる。そのため、はじめに地域住民への広報活動が重要であると考え。

上章までを踏まえ第5章では、筆者が考える有効的な広報活動として、住民主体でのキャンペーンの実施および住民保健ボランティアマップの作成を提示する。まず、キャンペーン方式とその効果を先行事例から概観し、グアテマラ国でおこなった「シャーガス病啓発キャンペーン」を紹介し、キャンペーン方式の効果が大きいことを実証する。そして、筆者が掲げる一考察として住民保健ボランティア主体でのキャンペーンの実施と住民保健ボランティアマップの有効性を検討する。最後に、住民保健ボランティアのモチベーションが向上し予想以上の成果を生むために、保健省スタッフのマネジメント力の強化が急務であることに触れて、第6章の結語で終わる。

本論文では、筆者が関わった一部の地域に限定された見解であり、すべての人々に同じアプローチが有効であるかの実証はできておらず、今後の課題とする。しかし、今後の開発途上国の保健政策において、住民参加から住民主体の活動に発展させることが必要である。住民一人ひとりが自分の問題として考え始めたときに、コミュニティレベルで保健システムが確立される。本論文で考察した住民保健ボランティアがそのファシリテーター役として機能することができれば、コミュニティ活動が活発化し、包括的な活動へ展開し、さらには、健康維持にとどまらず、生活の向上へと繋がっていくと考える。